

全国通訳案内士試験

① 主催団体

日本政府観光局（JNTO）

https://www.jnto.go.jp/jpn/projects/visitor_support/interpreter_guide_exams/about.html

② どんな試験？

国家試験です。観光庁の代行機関として日本政府観光局が実施しています。

全国通訳案内士試験に合格して、都道府県に登録をした人のみが「全国通訳案内士」と名乗ることができます。以下の言語の試験が実施されています。

英語

フランス語

スペイン語

ドイツ語

中国語（簡体字）

中国語（繁体字）

イタリア語

ポルトガル語

ロシア語

韓国語

タイ語

試験は一次試験と二次試験に分かれます。

一次試験（筆記試験）

- ・「外国語」（100点満点）
- ・「日本地理」（マークシート）（100点満点）
- ・「日本歴史」（マークシート）（100点満点）
- ・「産業・経済・政治及び文化に関する一般常識」（マークシート）（50点満点）
- ・「通訳案内の実務」（マークシート）（50点満点）

二次試験（口述試験）

日本の地理、歴史並びに産業、経済、政治及び文化についての主要な事柄のうち外国人観光客の関心が強いものが題材となります。受験者は疑似的な通訳案内の業務を行います。

なお、一次試験は各言語の運用能力を測る主要な試験で一定以上の成績を修めている場合に

は免除されることがあります。詳しくは最新のガイドラインを参照してください。

https://www.jnto.go.jp/jpn/projects/visitor_support/interpreter_guide_exams/index.html

③ 実施時期

例年、一次試験（筆記試験）は8月、二次試験（口述試験）は12月に実施されています。

④ どんな時に役立つ？

これまで、有償で通訳案内業務を行う場合に、「通訳案内士」の資格が必要でした。平成30年1月4日に改正通訳案内士法が施行されて、資格がなくても可能にはなりましたが、「全国通訳案内士」を名乗ることができるのは、全国通訳案内士試験に合格して、都道府県に登録をした人のみです。登録の後、所定の研修を受け、旅行会社と契約を結ぶことで実務が可能になります。

⑤ 試験対策など

当該言語における読む、書く、聞く、話すといった統合型技能に加えて、効果的なガイド能力が試されます。そのため4技能をバランス良く、高めていく対策が必要になります。

また、日本地理や歴史、産業・経済・政治及び文化などの一般常識など、通訳として必要とされる知識も問われますので、高校時代の教科書などを復習し、そこからの知識を当該言語でも発信できるようにする必要があります。

いずれにしても言語によって問題の傾向が異なりますので、過去問題を確認してみてください。日本政府観光局のホームページに公開されています。

https://www.jnto.go.jp/jpn/projects/visitor_support/interpreter_guide_exams/question_archive.html